

## 1 平成21年4月の消費者物価指数等

- 広島市総合指数（101.1）は前月比で2か月ぶりに下落。前年同月比は1年7か月ぶりに下落。
- 生鮮食品を除く総合指数（101.3）は前月比で2か月ぶりに下落。前年同月比は1年7か月ぶりに下落。
- 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数（99.3）は前月比で2か月ぶりに下落。前年同月比は1年4か月ぶりに下落。

## 2 総合指数，生鮮食品を除く総合指数，食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数

	指 数	前月比 (%)	前年同月比 (%)
総 合 指 数	101.1	▲0.3	▲0.3
生鮮食品を除く総合指数	101.3	▲0.4	▲0.3
食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数	99.3	▲0.2	▲0.6

## 3 前月からの動き

～光熱・水道を始め，多くの費目で下落した。食料，被服及び履物のみ上昇要因に。～

### (1) 10大費目の動き

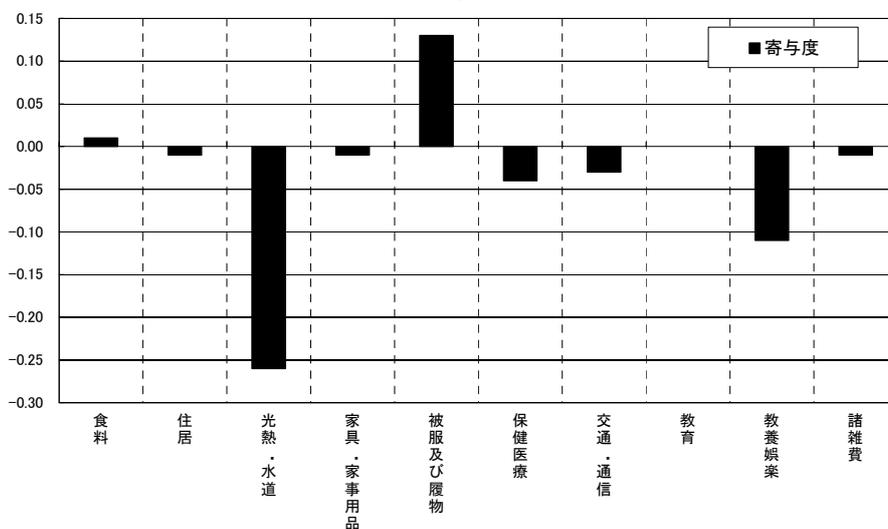
	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
指 数	101.1	104.3	100.6	109.5	88.5	106.2	98.2	96.7	105.3	95.1	102.4
前月比 (%)	▲0.3	0.0	▲0.1	▲3.6	▲0.3	2.5	▲0.8	▲0.2	▲0.1	▲1.1	▲0.1
寄与度	▲0.33	0.01	▲0.01	▲0.26	▲0.01	0.13	▲0.04	▲0.03	0.00	▲0.11	▲0.01

(参考) 主な要因となっている10大費目について，寄与の大きかった中分類項目

光熱・水道：ガス代（前月比▲10.6%，寄与度▲0.26）等

教養娯楽：教養娯楽サービス（前月比▲1.7%，寄与度▲0.10）等

図1 10大費目別前月比寄与度



(注) 寄与度：物価全体（総合）の上昇（下落）に，各費目がどれだけ影響したかを示したものの。本来，寄与度の合計は，総合指数の前（年同）月に対する変化率となるが，四捨五入の関係で一致しない場合がある。

(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目（寄与度順）

上 昇		下 落	
項 目（主な品目名）	前月比	項 目（主な品目名）	前月比
野菜・海藻（キャベツ 等）	3.8%	ガス代（都市ガス代 等）	▲10.6%
洋服（背広服〔冬物〕 等）	3.7%	教養娯楽サービス（外国パック旅行 等）	▲1.7%
菓子類（ゼリー 等）	2.1%	調理食品（冷凍調理ハンバーグ 等）	▲2.2%
シャツ・セーター類（婦人セーター〔長袖〕 等）	3.3%	果物（いちご 等）	▲7.4%
自動車等関係費（ガソリン 等）	0.4%	交通（高速自動車国道料金 等）	▲1.7%

(参考) 寄与の大きかった品目（上位2位）

上昇：背広服（冬物）、ガソリン 等

下落：都市ガス代、外国パック旅行 等

4 前年同月からの動き

～交通・通信、教養娯楽が主な下落要因で、1年7か月ぶりに下落。～

(1) 10大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
前年同月比 (%)	▲0.3	1.7	▲0.1	0.6	▲3.7	0.7	▲0.8	▲3.1	0.2	▲2.2	0.3
寄与度	▲0.25	0.46	▲0.01	0.05	▲0.12	0.04	▲0.04	▲0.43	0.01	▲0.22	0.02

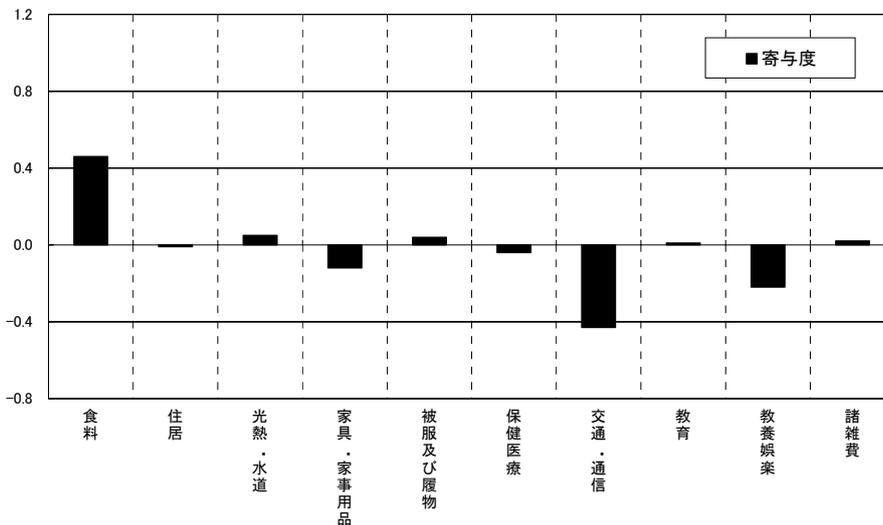
(参考) 主な要因となっている10大費目について、寄与の大きかった中分類項目

食 料：野菜・海藻（前年同月比7.9%、寄与度0.19）、菓子類（前年同月比5.5%、寄与度0.12）等

交通・通信：自動車等関係費（前年同月比▲5.2%、寄与度▲0.38）等

教 養 娯 楽：教養娯楽用耐久財（前年同月比▲25.7%、寄与度▲0.14）等

図2 10大費目別前年同月比寄与度



(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目（寄与度順）

上 昇		下 落	
費 目（主な品目名）	前年同月比	費 目（主な品目名）	前年同月比
野菜・海藻（ばれいしょ 等）	7.9%	自動車等関係費（ガソリン 等）	▲5.2%
電気代	6.3%	教養娯楽用耐久財（パソコン〔ノート型〕 等）	▲25.7%
菓子類（ビスケット 等）	5.5%	他の光熱（灯油）	▲32.3%
穀類（食パン 等）	4.9%	家庭用耐久財（ルームエアコン 等）	▲14.3%
外食（うどん〔外食〕 等）	1.6%	教養娯楽サービス（外国パック旅行 等）	▲2.1%

(参考) 寄与の大きかった品目（上位2位）

上昇：電気代、カーテン 等

下落：ガソリン、灯油 等

全国平均や中国地方平均よりも高めに推移

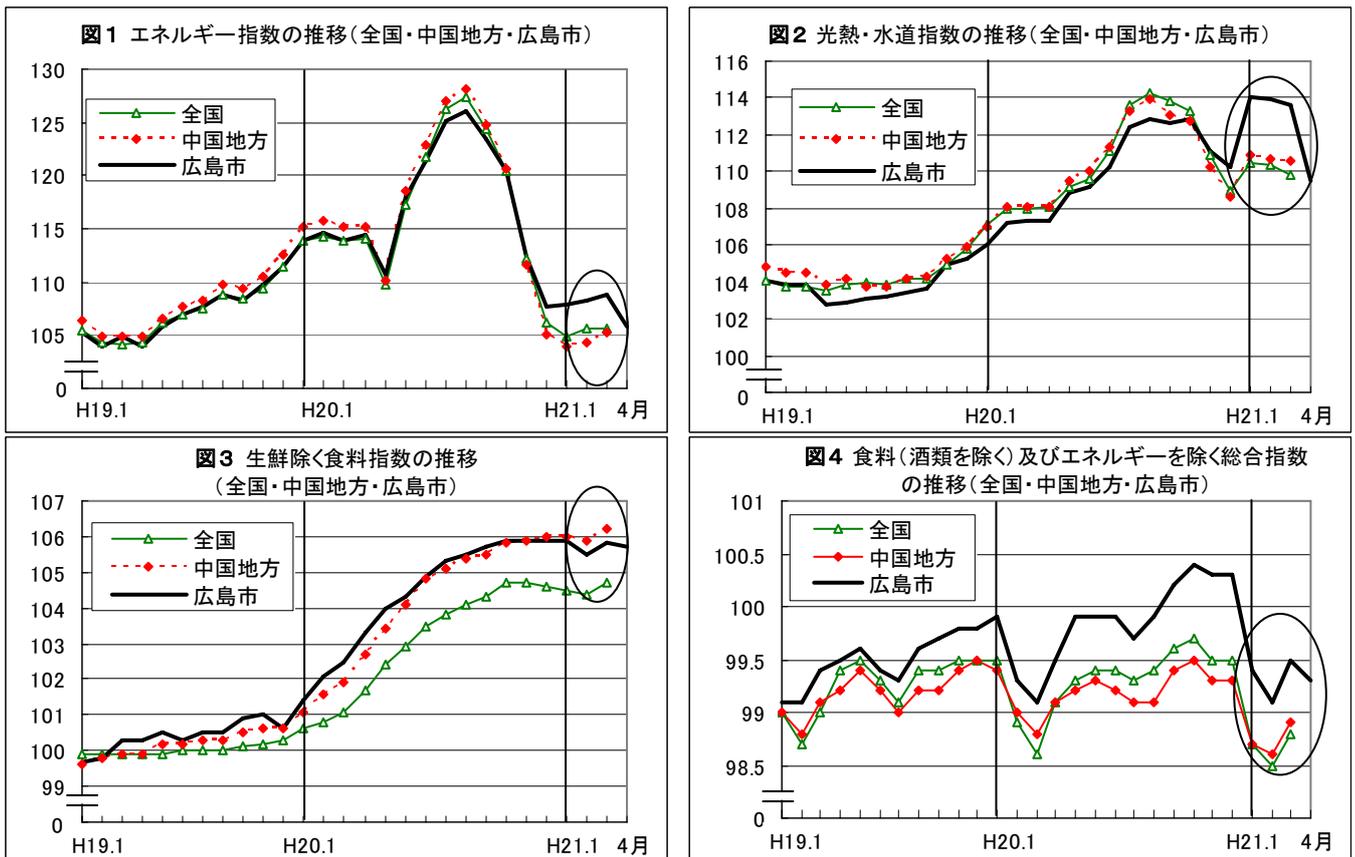
4月分速報値では広島市の総合指数（101.1）が前年同月比（▲0.3）で1年7か月ぶりに下落しましたが、全国平均では既に2月で前年同月を下回っていました。

そこで広島市の物価の特徴をみるために、平成19年1月から平成21年3月までの広島市消費者物価指数の推移を全国や中国地方平均と比較しました。

各指数については、広島市との比較で乖離のあったものの中から、図1～図3は原材料などの特殊要因の影響を受けやすい系列を、図4は物価の基調を比較する観点から「食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数」を取り上げ、それぞれ比較してみました。

- 図1 原油高などにより平成20年中大きく上昇した「エネルギー指数」は平成20年10月以降、全国や中国地方と同様に下落を続けましたが、平成20年12月には下げ止まり、以後他よりも高めに推移しています。
- 図2 「光熱・水道指数」については平成20年中の上昇は全国や中国地方と同様に推移したものの、平成21年1月以降は全国や中国地方より高くなっています。
- 図3 「生鮮食品を除く食料指数」については平成20年中には広島市、中国地方ともに全国を上回る上昇をし、その後も全国より高めに推移する傾向があります。
- 図4 「食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数」の推移をみても、全体的に全国、中国地方より高めに推移する傾向があります。

各指数の地域別比較表（H17=100）



これら、広島市の指数の特徴から、平成20年10月以降の急激な物価下落に対して、広島市では全国、中国地方に比べて「エネルギー指数」が早期に下げ止まったこと、「光熱・水道指数」の平成21年1月の上昇幅が高かったことがわかります。

また、地域の傾向として、「生鮮を除く食料指数」が高いことが挙げられます。

さらに、物価の基調を示す、「食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数」が高く、これは物価水準が全国や中国地方よりも高いことを示しています。

以上のことから、全国に比べて前年同月が下回ることが、遅れたと考えられます。